

中学生の「税」についての作文

小松島市口座振替推進会連合会が、納税意識の普及に次代を担う中学生を対象にした「税についての作文」を募集しました。後藤圭佑さん（小松島中2年）が同連合会の最優秀賞を受賞しました。

「税金の役割」

小松島中学校 二年 後藤 圭佑



僕の家の近くには、しおかせ公園があります。そこは、散歩をする老人の方やスケートボードをする若者等で大変にぎわっています。つい最近までは、すぐ近くで下水道施設の建設工事がすすめられていました。

では、これらの工事に必要な資金は、どこから出ているのでしょうか。それは、私達国民一人ひとりの税金なのです。日本国憲法では、国民の義務というものが3つあります。その義務の一つが税金

の納税です。公園や道路などの公共施設や設備など、私達の生活に役立つ公共施設は一人ひとりの税金で建てられているのです。もし、この世の中から税金制度が廃止されたら一体どうなってしまうのでしょうか。犯罪が起きても取りしまる警察署がないため、殺人、強盗が多発し廃れた世の中になっていく。警察や消防も税金の機関の一つなのです。ごみの回収も行われなくなり、まちがごみであふれ人体にも害を及ぼします。

これらのことから、私達の暮らしと税金は深い関わりをもっている事に気がきます。私達が、こうした豊かで平和な生活が送れるのも税金のおかげという事です。

けれども、そんな税金に対して悪いイメージを持つ人は、増加しつつあります。「なぜ、自分が税金など払わなければならないのか。」「税金など納めると家計に負担がかかる。払える人が払うのでいい

のではないか。」という考えをもっている人がいます。私は、このような考えをもっている人は、税金がどのような形で使われ、社会に税金がどう貢献しているのか、よく理解できていないのだと思います。

税金は、人々が、安心、安全で楽しく健康で、将来に不安を抱かなくて済むようにするために使われているお金です。「税金を納めること」それは国民の義務の一つなのです。税金を納める事は社会に貢献することなのです。

そう思うと、僕はかなり税金に助けられているなと思います。二週間に一度は行く市立図書館も税金で建てられています。図書館の本も税金で購入されています。図書館で僕はいろいろな事を学びました。小学校の頃には、夏休みの自由研究課題での内容も図書館で調べ、見つける事ができました。税金は子ども達にも関係があるのだと思います。

私は、すべての人が気持ちよく税金を納めるためには、一人ひとりが税金についてよく知り、正しく理解することが大切だと思います。六年後、僕は二十歳。日本の社会を支える立場に立った時、自分が今まで多くの税金を支えられてきたことへの感謝の気持ちを込めて、そして、よりよい暮らしのために、納税の義務をしっかりと果たしていきたいです。

平成19年度「税についての作文」優秀作品の表彰を受けた方は次のとおりです。

▼最優秀賞

後藤 圭佑 (小松島中)

▼優秀賞

清水瑛梨香 (小松島中)

木村 希望 (坂野中)

岡林 薫 (立江中)

▼入選

村上 奈峰 (小松島中)

澤淵 圭吾 (小松島中)

高源 佳奈 (小松島中)

井内 茜 (坂野中)

湯浅 里菜 (坂野中)

川村 美咲 (立江中)



年金 20歳から

20歳がスタート！国民年金

国民年金は、すべての公的年金の基礎となるものです。日本国内にお住まいの20歳から60歳までの人は、公的年金に加入することが法律で義務付けられています。やがて訪れる長い老後や、生活の安定を損なうような“万が一”の事態に備え、保険料を出し合い、お互いを支え合う制度です。20歳になったら、忘れずに国民年金の加入手続きをしましょう！